

2024年2月28日(水)第四水曜祈祷会

詩篇39篇1～13節

「私の望み」

【観察と黙想】 * 人生のはかなさを知る者の祈り

1. 『沈黙は痛みを増す』(39篇1～3節) * 「私は言った」とは、沈黙を守る決意のことば。

①「舌で罪を犯さないように」とは、どういうことですか。

→

②「私はひたすら黙っていた」とは、どういうことですか。

→

③「心は私のうちで熱くなり」とは、どういうことですか。

→

2. 『人生の無常』(詩篇39篇4～6節) * 「主よ お知らせください」とは、神に人生の無常を問う姿

①「私の終わり、私の齢を教えてください。とは、どういうことですか。

→

②「手幅ほど」「ないも同然」とは、どういうことですか。

→

③詩人はどうして「実にむなしいかぎりです(息のよう)」と言っているのでしょうか。

→

3. 『望みは神のみ』(詩篇39篇7～11節) * 主ご自身が自分の「望み」そのものである。

①「私のすべての背きから、私を助け出してください」とは、どういうことですか。

→

②「あなたがそうなさったからです」とは、どういうことですか。

→

③詩人はどうして「人はみなむなしいもの」と言っているのでしょうか。

→

4. 『神の前の祈り』(詩篇39篇12～13節) * 自分の罪に絶望しながらも、真実な神に信頼する。

①「祈り」「叫び」「涙」は、何を表していますか。

→

②「旅人」「寄留の者」は、何を表していますか。

→

③「私を見つめないでください」は、何を表していますか。

→

【適用と分かち合い】